

## 令和5年度 第1回 長井市総合教育会議議事録

◇開催日時 令和5年6月20日（火）13:30～15:30

◇開催場所 長井市役所 2階 庁議室

◇出席者 市長 内谷 重治  
教育長 土屋 正人  
教育長職務代理者 遠藤 倫夫  
教育委員 菊地 和代  
教育委員 小野 卓也  
教育委員 鈴木 奈美

### 【事務局】

技術参与	青木 邦博
総務参事兼地域づくり推進課長	新野 弘明
厚生参事	梅津 義徳
産業参事	赤間 茂樹
建設参事	佐原 勝博
総合政策課長	渡邊 恵子
観光文化交流課長	渋谷 和志
健康スポーツ課長	佐藤 秀人
教育総務課長兼給食共同調理場長	高世 潤
学校教育課長	横澤 聡一
総合政策課補佐	佐々木真一
地域づくり推進課補佐	吉川 幸代
教育総務課教育総務係長	長澤 春香

- ◇日程
- 1 開 会
  - 2 市長あいさつ
  - 3 協 議
    - (1) 次期・長井市教育等に関する施策の大綱について
      - ① 長井市の大綱について
        - i) 大綱の法的位置づけ・経過と今後
        - ii) 大綱と関連計画
        - iii) 大綱策定のスケジュール
        - iv) 現行大綱の主な成果と課題
      - ② 大綱（案）に関する意見交換
    - (2) その他
  - 4 その他
  - 5 閉 会

## ◇議事内容

### 1 開会

【開会のあいさつ】…（事務局/教育総務課長）

### 2 市長あいさつ

日頃より、教育委員の皆様には学校教育・社会教育等様々な面でご尽力賜り感謝申し上げます。総合教育会議は市長が招集し、教育委員会と市長部局の意見交換を行う場。今年度は、現行の教育の大綱の最終年度となり、第六次総合計画と合わせて次期大綱の策定が必要。大綱は、長井市の教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策を定めるもので、来年度から5年間のそれらの施策の基本となる重要なもの。

昨年度の2回の総合教育会議でも、教育の大綱の改訂に向け、学校教育・生涯学習・文化・スポーツなどの分野ごと、また、教育に関する大局的な視点からも教育委員の皆様からご意見を頂戴し、非常に有意義な会議であった。その時にいただいた貴重なご意見や、将来構想委員会の提言、子どもたちからのアンケートの回答を参考に、教育委員会事務局で次期大綱案を作成した。今日の会議では、大綱案に関する協議の他、大綱を基に策定することとなる教育振興計画や文化・芸術・スポーツ分野の各計画の策定に向け、来年度以降の教育行政に関し幅広い意見交換ができればと思っている。本日協議いただく大綱に基づき、教育委員会と市長部局が連携・協力を強化して各種施策に取り組んでいくとともに、次世代を担う子供たちの教育、市民の社会教育にかかる全般の大変大切な協議となるので、よろしくをお願いしたい。

### 3 協議（座長・内谷市長）

#### (1)次期・長井市教育等に関する施策の大綱について

##### ①長井市の大綱について

【説明】…（事務局/教育総務課長）

- i) 大綱の法的位置づけ・経過と今後
- ii) 大綱と関連計画
- iii) 大綱策定のスケジュール
- iv) 現行大綱の主な成果と課題

##### 【質疑応答】

（教育委員） 昨年 of 南北中の大規模改修で、子供たちも気持ちよく生活できているのでは、と感じている。精神的なストレスも改善しており、ありがたい。電子黒板等も整備していただいたり十分に手当てしていただいております。

（市長） 今回の南北中の大規模改修については、当初はタイミングを見計らってもう少し大規模なものを、と考えていたが、今後、義務教育としてどんな形が良いのか、長井市としても国でも検討、模索しているところであり、状況によっては改築や中学校の統合も検討しなければならないかもしれないため、いったん中規模程度の改修を行った。電子黒板は古いものも出てきているため、国の補助等も受けながら計画的に更新も進めていく。

(教育委員) R5.1 からアレルギー対応食の提供が始まり、みんなと同じものが食べられない子供や、弁当を持参していた子供たちがみんなと同じようにご飯を食べられるようになったことは大変ありがたいことだと感じている。文化・芸術分野の課題で「各種芸術文化団体では、新会員が減少し、存続が難しくなっている」、「文化財の保存活用、伝統文化の継承が危惧されている」とあるが、市内の神社の獅子連でも後継者不足や、人数自体も減っていると聞く。子供たちはお獅子さまが好きな子も多いが、獅子舞や笛の吹き方などを学ぶ場が地区によってはないのではないかと考えている。子供たちに指導する機会や時間を作っている地区もあるが、練習をしているところを見て覚えなさい、という昔ながらのやり方をしている地区もある。そういったところが継承が危惧される、後継者が減っていくことに繋がっていくのではないかと思う。学ぶ場を系統的に作っていただければもっと子供たちの関心も深まって継いでいこう、という気持ちが強まるのではないか。

(給食共同調理場長) 今年度は5月から、月2回ずつ乳と卵の2種類について、対応食を実施している。まず各学校に対応が必要な児童生徒がいるかどうか調査をし、献立を作成している。配食の際は、担任の先生がメインとなるが、先生方全員が対応できるような体制づくりも行っている。また、実施の前には詳細にシミュレーションを行っている。中学生であれば自分で判断もできるようになるが、小学生は特に注意が必要ではあるが、現在のところは問題なく実施できている。チェック項目は多項目にわたるが、きちんと確認しながら対応している。

(市長) アレルギー対応食については、新しい調理場ができる前から検討・対応を進めてきたが、十分な聞き取りをしないと危険性が高いため、十分準備期間を確保して開始した。当初意思疎通に課題があったが、徐々に進めている。

(教育長) 昨年度重要インシデントを報告したが、それ以降はさらに丁寧な対応をしていただいている。アレルギーの事件は学校現場が9割。管理職が意識をきちんと持つことが大切であるため、徹底していきたい。児童センターでも給食を提供しているが、成長によってアレルギーの対応も変わってくる。中学生くらいになると治る子もいるし、一生気を付けていかなければならない子もいる。また、小麦のアレルギーの子もいるが、これは対応食に入っていない。そういう子も含め、いずれは自分で判断しなければならないときが来るため、自己教育も含めて対応していく。

(市長) 最後は自分で判断していかなければならないが、低学年は難しいので、学校と調理現場と意思疎通をしっかりと引き続き取り組んでいく。獅子連については、それぞれの神社で大分違いがある。獅子舞は見世物ではない、という考えや、女性や子供は参加させられない、というところもある。伝承文化を次世代まで繋げるためには指導の場が必要。見て覚えろ、というところも多いが、一つ一つの動きにも理由があるため、そこも子供のうちから学べればもっと子供たちも興味を持つのではないかと思う。

(産業参事) 黒獅子まつりを始めた30数年前は獅子連離れがあり、伝統の継承が危ぶまれた時期だった。黒獅子まつりを始めたことでいったん盛り上がったが、最近では30年前と違って明らかに人数がいらない。また、神社側も地域で子供を

育てる観点も含めて、地域や伝統を守っていく意識に変えていかないと解決しない。草鞋も作る人がいない。そういった意識の醸成もコミセンなどから助言していただければと思っている。

(総務参事) 西根・平野などはコミセンでも草鞋づくりなどは関わっている。コミセンの事業にも関係してくるが、うまく連携できるように調整していきたい。

(市長) コミセンを法人化し、主事も市の給料表を使ったり、研修の機会を作ったり、長く勤めていただけるようにした。学校を中心に地域のコミュニティがより活性化するためにコミセンと学校は一体になるべきだと考えている。伝承文化をどう伝えていくかも含め、地区が自分たちのこととしてやっていかなければならない。

(教育委員) 学校給食費について、今年度物価高騰の値上がり分を市で負担していたら、給食費の保護者負担を据え置きにさせていただいたのは大変ありがたい。日本全体では、学校給食無償化に取り組んでいる自治体もあり、個人的には必要ないと思っはいるが、保護者の中には無償化が必要だ、と思っている方もいるかもしれないと感じている。また、インクルージョンに関して、学校教育では医療的ケア児、特別支援、要保護児童など、誰一人取り残さない、という意識で進んでいると思うが、それでも掬い取れない子供・家庭があるのではと思っている。家庭事情も千差万別のため、支援に引っかけられない家庭にどう目配せしていくか課題だと思う。生涯スポーツに関して、高齢者のスポーツを総合型地域スポーツクラブで頑張っているが、参加しているのは健康な高齢者ばかり。参加していないあまり健康でない高齢者も多くいる。そこに対してどう健康や体を動かす運動をしていただくか、そこも一つのインクルージョンなのかなと思う。

(市長) 給食費の無償化については、議会でも質問が出ている。学校給食運営委員会においては、「学校給食の無償化はありがたいが、すべて行政が支払う、ということになると地産地消を含めた食材調達や栄養価を含めて安全安心なものなのか、というチェックや意見が言いにくくなるのではないか、無償化すると中身の競争になってしまうのではないか、という懸念もあり、無償化は必ずしも必要ではなく、それよりも子供たちが栄養価の高い食材を安心安全に食べられることを重視したい」という意見をいただいている。少子化や人口減少の対策としては、いかに子育てや教育を充実させるかがポイント。教育にかかる経費などは、本来は国の施策としてすべき。自治体に任せては財政的にやれないところもある。育休中の給与保障や休んでいる間に不利益を被らないようにする、戻りたいときに復帰できるようにすることなどを含め、国が制度を作っていかないかいとダメだと思っている。インクルージョンについては、地域や高齢者の理解が足りない。相手の立場を思いやれる、寛容性のあるやさしいまちにしたい。粘り強く、一歩ずつやっていきたい。

(健康スポーツ課長) 花スポは今年度大きな改革をしており、スポーツ協会の傘下に入り、体制の強化を図っている。市民一人一スポーツの掘り起こしの作業をこれから進めていく。スポーツと健康の融合を目指しており、ミニデイサービスなど、地域の行事にスポーツも関わらせたいと考えている。引き続き予防化事業にもスポーツを関わらせていきたい。

- (市長) コロナでのイベント制限も終わったため、これから健康課とスポーツ課を一体化した成果を出していきたい。100歳体操をやっているが、ストレッチと体操、ウォーキングをやりたい。スポーツ以前に歩けない方も多いため、ウォーキングも大事だと思っている。
- (教育委員) 伝統文化の継承の中で、食文化の継承にも力を入れていただけたらと思う。郷土料理を次世代に引き継いでいきたい。食改さんなどで一般の人を対象とした講習会などをやっていただけたら、と思う。
- (厚生参事) 食改さんはもともと健康志向の食事を重点にやっていたらいい。昔から地元で食べている食材を使うなどの活動もされているが、どうやって広げていけるか、検討していきたい。
- (総務参事) 各コミセンでもレシピ集の発行などの活動を行っており、文化祭などでも発表している。これからもっと推進していければと思う。
- (教育委員) マラソンのまち、ということで力を入れているが、市民の参加率が低いのでは。スポーツには「する、観る、支える、すべて含めてスポーツを愛するということだ」という考えがある。選手にとって支えになるのは沿道の応援や拍手。市民としてはみんなで応援して盛り上げたい。行政側やスポーツ協会でも応援体制を支援する、盛り上げていく取組もしていただければと思う。
- (市長) 白つつじマラソンは、コロナ以降、街中を家族で楽しみながら歩く、ということも取り入れた。フルマラソンは外から来てもらおう、という発想で始まり、市民の皆さんがみんなで走ろう、という趣旨ではなかった。長井マラソンはフルとハーフだがハーフの参加者が少ない。合計でも1,000人程度。ながいまるごとマラソンにおいても5~20kmの若手や子供も走りやすいであろう距離の参加者をどう増やしていくかが課題。
- (教育長) スポーツは、する、観戦する、ボランティアで関わる、すべてがスポーツ。オリンピックの時はボランティアを多く募ったり、子供にも見せた。観る、応援する、ボランティアをして支えることも立派なスポーツ、という意識改革も必要だと思う。

## ②大綱(案)に関する意見交換

【説明】…(事務局/教育総務課教育総務係長)

- (教育委員) 「いつまでも住み続けたい」という表現に違和感を覚える。「住み続けたい」だとエクスクルーシブに感じる。これから長井市に移り住みたい人、長井市と他市の半々で住んでいる人などが入らないのでは。ここから出ていくな、という印象も受ける。住んでいなくても色々な関わり方があり、通勤していたり、何等かの形で関わっている人もいる。すべての人を巻き込んでほしい。
- (総合政策課長) 第6次総合計画は昨年度から策定の準備を進めており、委員の皆様から様々なご意見をいただきながら、目指す将来像についてキャッチフレーズをまとめさせていただいた。これまで培ってきた「循環」という理念を受け継ぎながら、SDGsの達成を目指し、将来の世代を考えた取り組みを進めていくことで持続可能なまちにしていきたい、急激な人口減少とならないように、市民

のニーズに適切に対応して定住志向が高まるまちにしたい、という思いを込めて作ったもの。長井市に住む人たちだけではなく、関係人口や交流人口にも目を向ける必要はあると感じた。市としては、人口を少しでも減らさない、維持することが大切、という視点で作ったところではあるが、まだ仮段階であるため、その点については検討したい。

(教育委員) 人口減少を止めるのは大切だが、それが目的なのか。結果として人口が減らないまちを目指していくべきだと思う。人口が減らないことを目的とすると手段を誤ってしまいかねない。外に出るな、という印象は窮屈で逆効果ではないかを感じる。

(総合政策課長) 増やすことが目的ではなく、結果として、目指したい。たとえ一度出て行っても帰ってきてくれるようなまちづくりを目指したい。

(市長) 選んでもらえるまちになりたい。「続けられる」という部分の表現を変えた方がいいかもしれない。人を縛るのではなく、魅力によって住みたいと思ってもらえるまち。キャッチフレーズの提案などはあるか。

(教育委員) 「いつでもやって来たいまち」。短期的に一泊二日で観光して帰っていてもいいし、住んでもらってもいい。閉鎖的にならずに受け入れていく。県外に出た若者も帰ってくる希望が持てる、いつでも帰ってこられる雰囲気を表せば良いのでは。

(技術参与) 大綱の位置づけとしては、下部計画へのトップダウンということか。それともボトムアップなのか。

(教育総務課長) 大綱をもとに各種計画を策定していく。ただし、大綱の策定は市長部局で、教育分野の教育振興計画は教育委員会で策定する。

(教育委員) 基本理念は「人づくり」、「まちづくり」の2段階でできていると思っており、そこは賛成。「教育の大綱」であるため、人づくりを目指す、というのは妥当かと思う。ただ、夢を大切にすれば幸せや生きがいを感じられるか、というとそうでもない。夢や目標を実現させるために自己を高める、生涯学習の観点、死ぬまで学び続けることで生きがいや幸せを感じるのだと思う。人づくりに学び続ける、高め続けるという「学び」のコンセプトを入れたい。また、人づくりのためにどうするのか、という点は、学校と家庭・地域の連携、生涯学習・文化・芸術・スポーツを充実させていく、とあり、自分のためだけでなくみんなのために学んで、それを発揮することでより良いまちづくりを目指す、という構成だと理解しており、賛成。なお「お互いを認め合い」と「多様な考え方を尊重しながら」という文言はダブっているように感じる。

(教育総務課長) 学んで、発揮して、つながって、成長していくという流れが理念の中から読み取れるように表現を検討していきたい。

(教育委員) 子供たちが幸せになるためには、大人が幸せを感じるまちでなければならないと思う。市民誰もが幸せや生きがいを感じるまちづくりに取り組む、ということだが、取り組んでいるものが分かりやすく記載されているといい。また、項目ごとにキーワードを記載してあるが、分からない言葉があるため、注意書きなどで補足してほしい。また、子供たちのアンケートの中に「子供の視点で意見を言ってみる」という回答があったが、子供の意見が反映されるまちであってほしいと思っている。伝統文化の継承の話もあったが、地域の寄り合

いなどで若い人と年配の人が一緒に話し合う際は、どうしても年配の人の意見が重視されることが多いように思う。子供視点の意見も取り入れられるまちであってほしい。

(教育総務課長) 注意書きは記載するようにする。取組については、伝統文化、食文化の継承であれば調理場においても味噌づくりを園児に体験してもらったりする取り組みもある。そういった具体的な取り組みについては、振興計画の中でお示しさせていただく。

(教育委員) 第3章に「自他を認め合い、大切にする」とあるが、自分と相手が完全にオープンになっているところが気になる。最初に自己肯定感があり、そこから相手を大切にすることが芽生えていく、という順番のはず。ここが同時になっているのはイメージがしにくい。また、スポーツ活動のところで、「それぞれの目的に応じて」という記載があるが、目的が何なのか分かりづらい。「気軽に楽しむ」と書くと「娯楽」の感じがするが、教育の観点でいうと楽しみながら学ぶ、という「学び」がある必要があるのではないか。また、楽しまなくてもいい、という人も含む必要があるため、「楽しむ」という言葉は再検討が必要ではないか。

(教育総務課長) 言葉や文章の受け取り方については、それぞれ受け手にお任せする部分はあるが、こちらの意図しないように受け取られることのないように表現の仕方については再度検討する。「気軽に楽しむ」の部分に「学び」を含める点については表現を変えさせていただく。

(教育委員) 第3章の「豊かに生きる力、しなやかな心」という表現がすごく良いと思った。「柔軟な心」ではなく、「しなやか」には優しさや柔らかさだけではなく強さも含まれている。この大綱はみんなに読んでもらってみんなに理解してほしいので、キーワードの言葉の意味は添えてほしい。

(市長) 例えば「インクルージョン」などは日本語に直すのが難しいところもある。「包み込む」や「共生」か。何か良い意見はあるか。

(教育委員) 「取り残さない」はどうか。「包摂」とも言ったりする。

(教育長) 今回の全体のキーワードは「寛容性」だと思っている。色々な人を受け入れ、出ていくのも止めるのではなくそれもすべて認める、寛容な社会であり寛容な人であることが基本理念だと思っている。教育の大綱なので、本来人づくりになるが、人づくりとまちづくりは対峙しているものではなく、例えばスクール・コミュニティは、人を作るが人が構成しているまちも作る。あたたかい人が集まればそういうまち、社会、集団になっていく。おおらかで、いつでも受け入れて、送れる人でありまちがこれから光っていく、という願いを込めた。

(教育委員) 「教育の大綱」の目指すところは「人」なのか「まち」なのか教育長と話していたところ。「人」にこだわらず、まち全体の教育力、教育機能を目指す、という理解の仕方で良いのか確認したい。「教育」という手段の大綱ではなく、そういう人をみんなで支えあって作っていかう、という桁の目標で良いのか。

(市長) 長井市は県内でも寛容性のあるまちだと思っている。特に今泉は人がたくさん入ってきておりもっと寛容。今泉は大正時代に駅ができ、戦後引き上げて

色々な人が入ってきた。長井は流通の拠点であったため、色々な人が出入りしていた。一人一人がまちの寛容性につながる。やさしい人がたくさん住んでいると地域全体もやさしいまちになる。

(教育委員) 箱物を意図して「まち」と言っているわけではなく、人の集合体を「まち」と言っているので、人＝まちで良いのではないかと思う。「子供」とも限定もしていないし、大人も生涯教育で学んで成長していく。学問だけではなく、新しい考え方や寛容な心を養うための他者の理解を含めての学びと考えれば良いのではないかと思う。また、「ふれあい」をいう言葉が引っかかる。距離が近いことを「ふれあい」を言っているのではないと思うが、今の時代ある程度パーソナルゾーンがあって個が大切にされるところがある。人の家に土足で入って来ることも「ふれあい」だといわれるとここには住んでいられない、という人も出てくるのではないかと思う。身体的接触にも捉えられかねない。

(教育総務課長) 「つながり」に「ふれあい」が含まれている部分もあるため、改めて検討する。

(市長) 「交流」などに入れ替えても良いかもしれない。

(建設参事) 教育長からもあったように、キーワードは寛容性だと思う。長井市は市外からも人を受け入れる優しい社会ができていると感じている。西根小に医療的ケアが必要な子供がいて看護師を配置して体制を整えたのは、学校・医療など様々なところが連携して実現した大変すばらしい取り組みであると感じている。長井の良さ、やさしいまちであり続けられるように取り組んでいきたい。子供食堂などを行っているところもあるが、受け皿から漏れるような子供や家庭に対しても支援ができるまちでありたい。

(観光文化交流課長) 文化・芸術・スポーツは、自分ができなくても見たり、聞いたり、応援したり関わり合いやすい分野であるため、そういったことも考えていきたい。

(学校教育課長) また新たに検討事項をいただいたので、事務局で話し合い次回会議で修正案を出させていただく。

(産業参事) 目指すところは教育もまちづくりも同じ。行政としてはまちづくりとして寛容性のある社会を築いていかなければならない。教育の大綱と第6次総合計画とで整合性が取れるように深堀してまとめていきたい。

## (2) その他

(市長) 長井市は小中ともに学校施設が古いので、令和8年からの二期目の公共施設整備計画に上げたいと考えている。それまで小学校と中学校をどうするのか決めていきたい。スクール・コミュニティの実現のためにも現時点では小学校は統廃合をしたくないと思っているが、中学校はあり得るかもしれない。また、市として、西置賜として深刻なのは高校。このままだと長井市の子供は市外に通わなければならない。引き続き総合教育会議の中でもみなさまから意見を頂戴したい。

#### 4 その他

(事務局/教育総務課長) いただいたご意見を元に事務局で修正案を作成し、次回会議でお示しする。次回会議日程は追ってお知らせする。

#### 5 開会

【閉会のあいさつ】… (事務局/教育総務課長)

(会議 15:30 終了)

以上